

あつたかなこのまちで暮らし続けるために

特集

地域で支えよう 認知症高齢者

認知症による徘徊

近年、高齢者の増加に伴い、認知症高齢者が増加しています。認知症は85歳以上の方の4人に1人がなると言われており、認知症により引き起こされる症状には、時間や場所が分からずに家に帰れなくなる「徘徊」があります。記憶力・判断力の低下によって、自分で帰れなくなり、命に関わる事もあります。

みなんで探そやーネットワーク
市では、認知症高齢者が徘徊などで行方不明となった際に、早期発見・保護できるように、「みなんで探そやーネットワーク」があり、行政無線やメールなどで協力機関に情報を配信しています。認知症による徘徊の心配がある方は、事前に登録（あんしん登録）しておきましょう。

位置検索システム

もしもの時に現在地の確認ができます
認知症の方が徘徊などによる行方不明となった際に、早期に発見・保護できるよう、位置情報を検索できる端末機を貸与します。
※3年契約で、うち1年間は無償で貸与



「もしがして...？」
あなたの気づきで、救える命があります！

でも、なんて声をかけたらいいの？



あなたも参加してみませんか？ 「認知症高齢者探そや体験」(徘徊模擬訓練)

認知症になっても、地域で安心して暮らせるまちづくりを目指して、「高齢者の方がまちを不安そうに歩いている」という設定のもと、認知症高齢者への声かけや見守りなどの体験を行います。

体験の目的

- 認知症について理解を深める
- 徘徊かもしれないと思った時、声をかける大切さ、その後の対応について学ぶ

※当日は、GPS 端末機にて、徘徊高齢者役の方の位置検索の体験ができます！

日時：11月8日(土) 13時～16時
場所：妻鳥公民館



知ってください！認知症のこと
あなたの地区でもしてみませんか？

認知症サポーター養成講座

認知症のことはみんなで考え、応援していかねければならない問題です。

そこで各自治体では、認知症とはどのような病気か、本人や家族にどのような影響があり、なぜ地域や社会で支える必要があるのかを学ぶ認知症サポーター養成講座を、2005年からスタートさせています。

養成講座を受けた人は「認知症サポーター」となり、その証としてオレンジリングが渡されます。認知症サポーターとは、認知症の人と家族を理解し、温かい目で見守る応援者のことです。どなたでも参加でき、



市内の小・中学校、高校から地域のサロンや老人会でも講座を受講していただき、これまでに、5496人のサポーターが誕生しています。
本市では、今年度末までに、「サポーター6000人の輪」を目指します！
講義は、キャラバンメイト(認知症サポーター養成講座の講師)がお伺いします。
時間などについては、受講者と相談します。数人単位からでも受講できますので、気軽にお問い合わせください。
■開催予定！
日 11月25日(火) 13時30分～14時30分
場 福祉会館2階 教養娯楽室

～もの忘れチェック体験～ 定期実施中

もの忘れが気になった時などに、気軽にチェックできるタッチパネルパソコンを使った「もの忘れ相談プログラム」を行っています。
心配なもの忘れの疑いを早期にチェックして、認知症予防に取り組みましょう。

※チェックは簡単で、5分程度で終わります
※結果により、もう少し詳しい検査もすることができます

もの忘れチェック体験の様子



もの忘れチェック体験の画面



今の自分の状態を知ることは、とても大切です。
10年後も元気なあなたでいるために、チェックしてみませんか？

※10月・11月の体験日は13ページをご覧ください

10年後も元気をあなたでいるために

目標は、軽度認知機能障害の段階での早期発見・予防

軽度認知機能障害について知ろう
認知症の対応において、一番大変になりやすい時期は中期(中等度)だといわれます。体はまだまだ元気ですが、認知機能が低下することに

より、行動・心理症状などが悪化して、トラブルがおきやすいためです。
そのため、認知症の前段階といえる「軽度認知機能障害」の段階で早期発見・予防をして、年齢相応を維持できるようにすることが大事であると言われています。

地域包括支援センター

28・6147